

ユネスコ・アジア太平洋写真展

「スポーツの喜び」をテーマに開催された、2002年のコンテスト応募作品21ヶ国2,158点の中から、入選作品100点を展示します。
身体を動かす喜びを味わう100通りの場面から、人々の歓声や息遣いを感じていただける展示です。



Zhou Xuelun(China)
(財)ユネスコ・アジア文化センター提供

その国の人ならではの視点で撮った様々な「スポーツの喜び」をぜひ会場でお確かめください。

会期 2003年
10月10日(金)～
10月26日(日)
20日(月)休館
9:00～17:00

会場 あーすぷらざ3F
企画展示室
入場無料



Huynh Ngoc Thach(Viet nam)
(財)ユネスコ・アジア文化センター提供

“Save イラク文化財” 募金のお願い

イラクの貴重な文化財が、イラクの政権崩壊に伴う治安の悪化により、現在、国内外へ流出するなど深刻な散逸の危機に見舞われています。
イラクの貴重な文化財の保護のため、皆様のご協力を願います。
この取り組みは、地域からできる国際協力として大切なことであり、イラクの文化に対する理解を深めていただく機会としても意義深いものと考え、財団法人神奈川国際交流協会が賛同し、神奈川県が協力して、募金へのご協力を願うことといたしました。
皆様からお寄せいただいた募金は“Save イラク文化財”キャンペーン連絡協議会へ寄託します。

募集期間 2003年9月1日～2003年11月30日
募金方法 郵便振込 口座番号00260-0-2644



加入者名
(財)神奈川国際
交流協会
通信欄に
“Saveイラク文化財”
と書き下さい

事務局
(財)神奈川国際
交流協会
TEL045-896-2964

バビロンの行列道路

留学生トークタイム

世界の各地から来日した留学生などの講師が、出身地の暮らしや文化を日本語で案内します。第1部は映像や展示物などを使ったお話しコーナー、第2部は子どもの遊びや民族衣装の試着などの体験コーナーとなっています。

日時 毎週日曜日 14:20～
場所 あーすぷらざ5F こどもの国際理解展示室
内容 10月5日お休み、12日中国、19日モンゴル、26日お休み、
11月2日ブラジル、9日インド、16日以降未定

*都合により内容が変わることもありますのでご了承ください。
参加費 展示室観覧料のみ
(大人500円、中高生300円、小学生100円、幼児無料)
問合せ 地球市民学習課 TEL045-896-2899



地球市民学習リーダーセミナー「まなびの工具箱」

第5回 「関係をひらく写真とは」
～多文化共生へのメディアをつくる～

日時 10月25日(土) 13:30～16:00
講師 北川 大さん(写真家、「Voices」代表)
内容 写真家で映像教育の実践者でもある北川大さんを講師にお招きし、これまでの北川さんの写真との関わりを伺いながら、私たちの他者への視線について考える機会とします。
場所 あーすぷらざ1F・会議室
対象 教育関係者、NGO関係者ほか地球市民学習の実践に関心がある方 30名(申込先着順)

参加費 無料

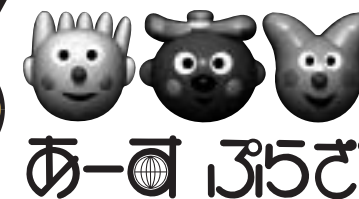
申込方法 ①講座名②氏名(ふりがな)③所属(学校名や団体名)④連絡先(TEL、FAX、Eメール)をすべて明記して、TEL/FAX/Eメールでお申し込みください。ご参加いただけない場合のみ、こちらからご連絡します。

申込先 企画情報課
TEL045-896-2896
FAX045-896-2945
E-mail
kikaku@k-i-a.or.jp



地球市民レポート
THE GLOBAL CITIZENSHIP REPORT

NO.17
2003/10



これはどんな時代に、
どこで写した
写真だろう???



◆有料施設のご案内[プラザホール]



講演会をはじめ人形劇、子どもミュージカル、国際シンポジウムなどの開催にご利用いただけます。

区分		平日		土・日・休日	
		AM9～PM5	PM5～PM10	AM9～PM5	PM5～PM10
プラザホール (226席)	入場料あり	4,500円	5,200円	5,650円	6,500円
	入場料なし	3,000円	3,450円	3,750円	4,300円



発行:神奈川県立地球市民かながわプラザ(JR根岸線「本郷台」駅下車徒歩3分) <http://www.k-i-a.or.jp/plaza/>
企画・編集:(財)神奈川国際交流協会 <http://www.k-i-a.or.jp>
〒247-0007横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 問合せ:TEL045-896-2121 FAX045-896-2945

がく どう そ かい 答えは戦争中の学童疎開の写真です。



横浜を空襲するアメリカ軍B29爆撃機

日本が戦争をしていたころ、敵の飛行機による攻撃(こうげき)をさけるため、都会の子どもたちを地方へ移動させました。それを学童疎開と言います。全部で58万人あまりの子どもたちが、住みなれた家をはなれました。

今でも世界では、戦争によってたくさんの子どもたちが亡くなっています。あーすぶらざ5F「国際平和展示室」には、学童疎開に関する展示コーナーがあります。学童疎開をとらえて平和を考えてみませんか。

遊び

疎開先の子どもたちと仲良くなるための行事(ぎょうじ)も各地で行われました。今の子どもたちの遊びとは、だいぶちがっているようです。

着ている服、髪型(かみがた)もよく見てみよう。



女子児童は遊びの時間に「カゴメ、カゴメ」(横浜市立根岸国民学校) 横浜市の学童疎開50周年を記念する会提供



「はっけよーい のこった、のこった」(横須賀市立船越国民学校) 伊藤幸枝氏寄贈

学童疎開展示コーナー



あーすぶらざ5Fの国際平和展示室には、学童疎開に関する写真、日記、絵などを展示しているコーナーがあります。学童疎開について調べてみませんか。

国際平和展示室



この展示室では、昭和の初めにあった長くつらい戦争を、神奈川県民の体験を通して、地域社会の歴史として展示しています。また、新たに起こってきた地球規模の課題についても、一人ひとりが、地球市民として地球全体を見つめることのできる展示になっています。「国際平和展示室」で平和や地球規模の課題について考えてみませんか。



「たんけんガイド」を使って「国際平和展示室」をたんけんしてみよう。

学童疎開で、子どもたちはどんな暮らしをしていたのでしょうか。

食べもの

疎開先では食べものが少なく、おなかのすいた子どもたちはお手玉の中のおすきや絵の具、薬など何でも口にしました。

戦争の時の食べものをつくってみよう!

すいとん

用意するもの

小麦粉(こむぎこ) 300g 水200cc 塩少々 しょうゆ・だし汁適量(てきりょう)

- ①ボールに小麦粉と塩をいれ、水を入れながらこねて、やわらかめの生地(きじ)を作ります。
- ②だし汁、しょうゆを煮立(にた)てた鍋(なべ)に、一口サイズの生地を落としてゆでます。
- ③はい、できあがり。戦争中は、これにサツマイモの茎(くき)が入ればよいのですが、野菜や肉などを入れたほうがおいしいです。



食事ふうけい(横浜市立老松国民学校の児童たち) 横浜市の学童疎開50周年を記念する会提供

生活

家族から離れた子どもたちの生活はどうだったのでしょうか。疎開先に特別な施設(しせつ)が用意されていたわけではありませんでした。お寺や旅館、集会所などが利用されました。衛生(えいせい)状態は悪く、伝染病(でんせんびょう)も流行(りゅうこう)しました。そんな中、子どもたちは協力しながら生活しました。



伊藤幸枝氏寄贈

【参考資料】

「戦争とくらし百科 4空襲と空腹の日々」/日本図書センター 「写真・絵画集成 戦争と子どもたち 5家族と離れて生きる」/日本図書センター 「横浜市の学童疎開～それは子どもたちのたかひであった」/横浜市教育委員会